

[戻る](#)

1899号 / 2005年12月

連 合 神 奈 川
発行責任者: 小西 正典

2006 春季生活闘争 賃金カーブ維持から改善へ

連 合は11 月30 日、第46 回中央委員会を開催し、2006 春季生活闘争方針を決定した。連合神奈川はこれを受け、『連合神奈川における「2006 春季生活闘争」方針』を決定した。

最重点課題

政策制度要求の実現に向けた取り組み

賃金の課題

パート労働者等の待遇改善

最低賃金の課題

労働時間、働き方、

ワークルール確立の課題

取引関係の改善と公契約に関わる運動

1)賃金改定の取り組み

賃金カーブ維持分を確保した上で積極的な「賃金改善」に取り組む。

中小・地場組合は賃金実態を把握し、賃金カーブ維持分を確保。

中小支援センターを活用し、あらゆる労働条件の改善に向けて支援体制を確立する。

部門別連絡会の活動・機能強化中小支援センターの取組み強化神奈川ミニマム運動の取組み

2)労働時間、働き方、ワークルールの確立

ワークルールの確立、雇用の安定と確保など

3)政策・制度要求の取り組み

【重点課題】サラリーマン大増税阻止など

4)組織拡大の取り組み強化

06年2月に組織拡大の取組み『組合づくり・神奈川アクションプラン21』を開催5)最低賃金の取組み地域最低賃金、産業別最低賃金の取組みなど地域連合の取組み

学習会、決起集会をそれぞれの地域で開催。時期:06年2月～3月

(詳細は連合神奈川ホームページに記載)

2006 春季生活闘争総決起集会

日時:06年2月24日(金)18時30分～

場所:関内ホール

青年委員会 第16 回定期総会 次代を担う人材の育成をめざし

連 合神奈川青年委員会は12 月8 日、ワークピア横浜で第16 回定期総会を開催。役員、代議員ら101 名が参加した。総会では「次代を担う人材の発掘・育成、産別間・外部団体との交流などの活動を通じて、人間関係構築と組織づくり」を目的とした活動方針などを決定。

今後一年間の青年運動を推進していくこととなった。

第1 回ボランティアリーダー講座が終了

かながわボランティアネットワーク(V ネット)主催の第1 回ボランティアリーダー養成講座が12 月10 日終了し、21 名がボランティアリーダーに認定された。修了者はV ネットのボランティアリーダーとして、さまざまな活動に参加していく。この講座は来年第2 期として基礎講座に加え上級講座も予定している。

女性委員会 第16 回定期総会 歴史踏まえ、真の男女平等社会をめざす

連 合神奈川女性委員会は12 月9 日、ワークピア横浜で第16 回定期総会を開催。役員、代議員ら87 名が参加した。壇に立った大貫女性委員会委員長は「今年は第1 回世界女性会議から30 年。男女雇用機会均等法から20 年と節目の年。連合運動を通じて、違う単組の女性委員会の人たちと知り合い、語り合い、真の男女平等社会に向け、行動していきたい」と語った。総会では2006 年度の活動方針として職場社会家庭・地域社会労働組合連合神奈川女性委員会の5 つを柱に活動を展開していくことなどが決定した。女性委員会はこのあと学習会を開催。

みかん狩りでふれあい交流

連 合神奈川女性委員会と青年委員会は11 月23 日、三浦市でふれあい交流行事を開催。行事は毎年規模を拡大し、昨年の232 人を大きく上回る324 人が集まり、みかん狩りや餅つきを楽しんだ。

民主党本部・前原代表、県連・浅尾代表らと懇談

連合神奈川は11月30日、横浜で民主党本部・県連と懇談会を行った。連合神奈川からは白石会長以下五役ら16名が参加。民主党からは前原代表、浅尾神奈川県連代表、千葉代表代行らが出席した。

懇談は連合神奈川白石会長が「就任直後、前原代表が『しがらみを断つ』『脱労組』などの発言をされた」と報道があった。

直接その考えを聞きたい」とあいさつ。これに対し前原代表は「支援者、支持団体と、すべての政策テーマで意見を一致させたい。私たちは働く人たち、消費者、生活者の視点に立った政治を行っていく。政策で一致しない部分は、お互いの意見をしっかりと話す中で、溝を埋めていく努力をしなければならない。

その大前提としてあるのが、支持をいただく皆さんは、我々にとって神様である、ということ。こちらから関係を断ち切るなどあり得ない。私は“脱労組”という言葉を使ったことは一度もない。これはマスコミが使ったもの。小選挙区で151以上勝たなければ、政権は取れない。そのためにも、さらに広く支持団体を増やしていかなければならないと結論した。私の真意は、

『労組だけに依存しているのは小選挙区では勝てない』と申し上げた。連合、民主党の支持はしっかりと固めた上で、それ以外の支持を集める努力をしないと、小選挙区で勝つことはできない。労組だけに依存する選挙をしてはいけない、そういう意を持つ党の正念場。しっかりとがんばっていき」と語った。

この懇談で、代表の思いを直接、各産別の代表が聞き、意見交換を行った。出席した役員からは、政策や公認基準問題、マスコミ対策、経済界との関係など、さまざまな角度からの質問が飛び、活発に議論された。て語ったことが“脱労組”という言葉で皆さんに伝わっていたのだとしたら、私の言葉足らずだった。私たちも底力がついてきた。あとは接近戦の中で自民党支持基盤をひっくり返すような執念、気迫、支持を広げる活動をどう進めていくのか、国会対話を含めて、これからが民主この懇談で、代表の思いを直接、各産別の代表が聞き、意見交換を行った。出席した役員からは、政策や公認基準問題、マスコミ対策、経済界との関係など、さまざまな角度からの質問が飛び、活発に議論された。

障害者の日キャンペーン

連合神奈川は県労福協などと障害者の日キャンペーンを展開。

横浜駅西口・相鉄口で啓発ビラとティッシュを配布した
